

一 ^{こんがきむい}今我喜無畏の事

仰せに云はく、此の經文は權教を説き畢^{おわ}らせ玉ひて法華經を説かせ玉ふ時なれば、喜びてを^畏それなしと説き玉へり。其の故は爾前の間は一切衆生を^{おそ}畏れ玉へり。若し法華經を説かずして、^{むな}空しくや^有あらんずらんと^{おぼめ}思し召す畏れ深く有り^{おそ}と云ふ文なり。さて今は畏るべき事無く、時節来^あた^いって説く^あ間^い畏れ無しと喜び玉へり。今日蓮等の類も此くの如し。日蓮も生年三十二歳までは畏れありき。若しや此の南無妙法蓮華經を弘めずして有らんずらんと畏れありき。今は即ち此の畏れ無く、既に末法当時南無妙法蓮華經の七字を日本国に弘むる間^{えんぶだい}畏れなし。終には一閻浮提に広宣流布せん事一定なるべし云云。